

世田谷区における中小企業の景況

第43回調査実施概要

1. 調査時期 : 平成25年4月1日 ~ 4月12日
2. 対象期間 : 平成25年1月 ~ 平成25年3月期、及び平成25年4月 ~ 平成25年6月期見通し
3. 調査対象 : 支部会員中小企業（約2,832社）

①製造業・建設業・運輸業・その他の業種(②～④を除く)	資本金3億円以下、または従業員300人以下	③小売業	資本金5千万円以下、または従業員50人以下
②卸売業	資本金1億円以下、または従業員100人以下	④サービス業	資本金5千万円以下、または従業員100人以下

4. 調査方法 : 調査票郵送～郵送・FAXにて回収。世田谷信用金庫・昭和信用金庫に協力依頼。
5. 回収状況 : 合計 379 社（回収率 = 12.7%）

製造業	46 社	不動産業	32 社	小売業(飲食業含む)	70 社
建設業	84 社	卸売業	45 社	サービス業	102 社

概況

<DI(Diffusion Index)とは…> $DI(\%) = \text{「良い」「増加」等企業割合} - \text{「悪い」「減少」等企業割合}$

DIとは、各設問の項目について、「増加」「好転」したとする企業の割合から、「減少」「悪化」したとする企業の割合を差し引いた値です。したがってDIがプラスを示している場合は、全体として「増加」「好転」とする企業が多く、景気(またはそれぞれの要素)が上向きの傾向にあることを示します。逆にマイナスを示している場合は、景気が低迷の傾向にあることを示します。

業況

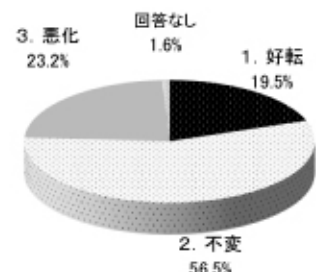
今期(平成25年1月～3月期実績)の業況DIは▲3.7ポイントで、前期から15.4ポイント悪化幅が縮小した。悪化幅の縮小は2期連続。来期の業況見通しDIも、14.2ポイントと、前期から12.5ポイント改善した。来期見通しDIが2桁のプラスとなるのは、平成10年4月～9月期の調査開始以来、初めて。

今期の業況
(前期との比較)

今期業況DI = ▲3.7

DI ▲3.7 =
好転 19.5% - 悪化 23.2%

※前回調査(-19.1)から 15.4ポイント改善

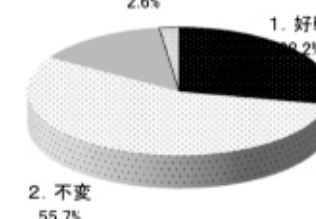


来期の見通し
(今期との比較)

来期見通しDI = 14.2

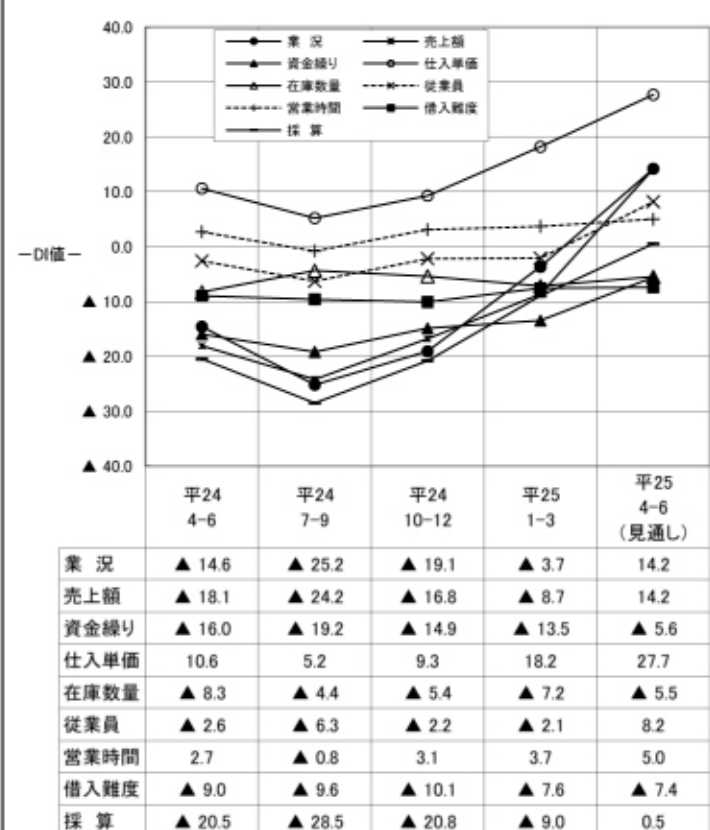
DI 14.2 =
好転 28.2% - 悪化 14.0%

※前回調査(1.7)から 12.5ポイント改善



主な指標別の傾向

今期は、売上額▲8.7(前期比+8.1)、採算▲9.0(同+11.8)など、在庫数量を除く8指標で悪化幅が縮小、改善した。来期見通しは、全ての指標で悪化幅縮小、好転の見通し。



■主要景況指数表

(注)調査項目: 業況(好転⇔悪化)、売上額(増加⇔減少)、資金繰り(好転⇔悪化)、仕入単価(上昇⇔低下)、在庫数量(増加⇔減少)、従業員(増加⇔減少)、営業時間(延長⇔短縮)、借入難度(容易⇔困難)、採算(好転⇔悪化)

今期の状況(前期比)

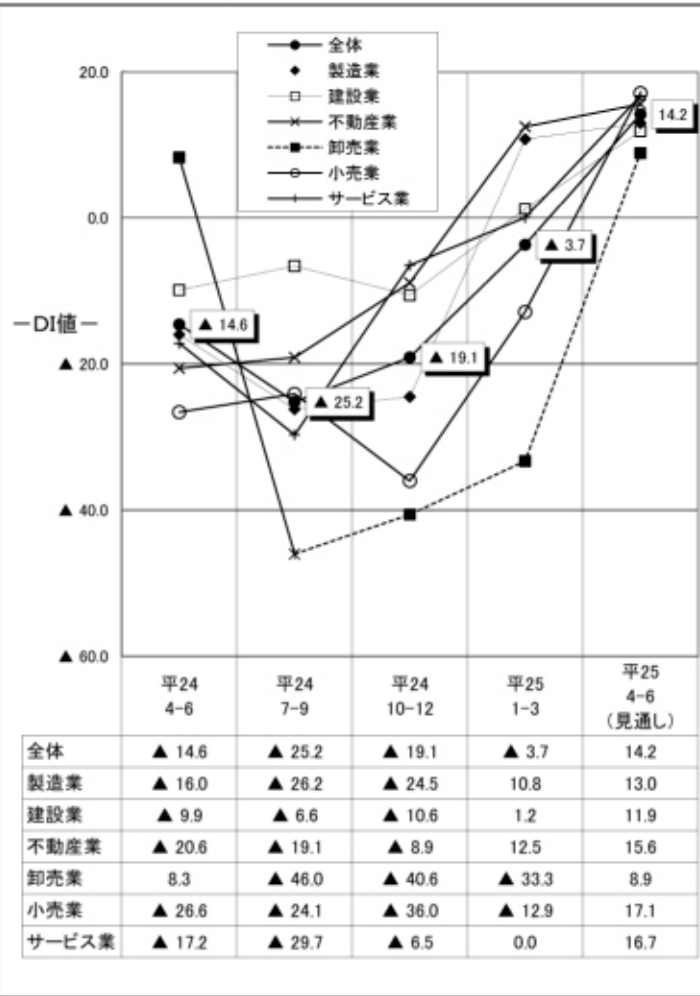
	業況	前年同期比	売上額	前年同期比	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全体	▲3.7	▲9.5	▲8.7	▲9.0	▲13.5	18.2	▲7.2	▲2.1	3.7	▲7.6	▲9.0
製造業	10.8	0.0	4.3	▲10.9	▲6.5	17.4	▲6.5	▲4.4	4.4	▲8.7	0.0
建設業	1.2	7.1	▲6.0	3.6	▲9.6	28.5	▲11.9	1.2	8.3	▲6.0	▲5.9
不動産業	12.5	▲12.5	0.0	▲9.3	▲12.5	3.2	▲3.1	6.3	▲6.3	0.0	▲6.3
卸売業	▲33.3	▲31.1	▲31.1	▲22.2	▲26.7	22.2	▲8.9	▲11.2	2.2	▲17.8	▲24.5
小売業	▲12.9	▲27.1	▲21.4	▲27.2	▲22.9	17.2	▲8.6	▲5.8	▲1.4	▲17.2	▲17.2
サービス業	0.0	▲4.9	▲1.0	0.0	▲7.8	13.7	▲3.0	0.0	6.9	0.0	▲3.9

来期の見通し(当期比)

	業況	売上額	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全体	14.2	14.2	▲5.6	27.7	▲5.5	8.2	5.0	▲7.4	0.5
製造業	13.0	19.6	▲6.6	30.4	▲4.3	6.5	0.0	▲13.1	8.7
建設業	11.9	8.3	▲3.6	39.3	▲9.5	15.4	9.5	▲7.2	▲7.1
不動産業	15.6	18.8	▲6.2	15.7	▲3.1	3.1	▲3.1	▲3.1	0.0
卸売業	8.9	13.3	▲8.9	24.5	▲8.9	0.0	6.7	▲13.3	6.7
小売業	17.1	20.0	▲5.7	25.7	▲7.1	1.4	2.8	▲10.0	▲4.3
サービス業	16.7	11.8	▲4.9	23.5	▲1.0	12.7	6.9	▲1.9	3.9

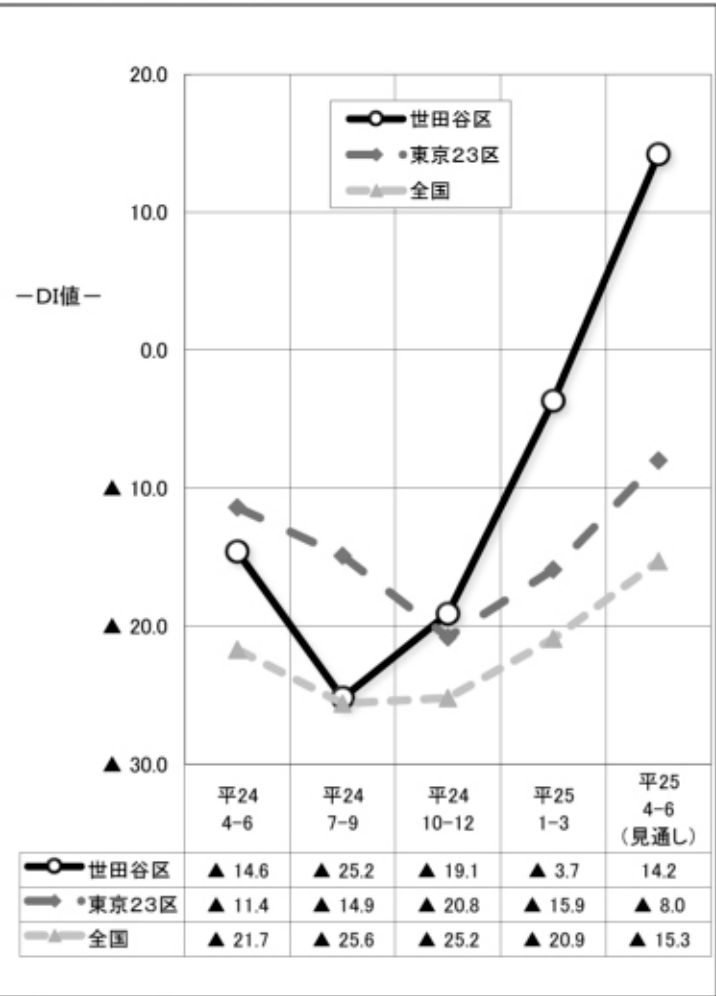
業種別の動向

今期の業種別DIは、全業種で悪化幅が縮小、好転した。特に「小売業」(▲12.9ポイント、前期比+23.1)、「不動産業」(12.5ポイント、前期比+21.4)は、悪化幅が大きく縮小した。来期も全業種で悪化幅縮小、改善の見通しで、特に「卸売業」(8.9ポイント、同+42.2)の見通しが明るい。



東京都・全国との比較

「世田谷区」では▲3.7ポイント(前期比+15.4)と2期連続の悪化幅縮小となった。「東京23区」▲15.9ポイント(前期比+4.9)、「全国」▲20.9ポイント(同+4.3)ともに悪化幅が縮小となった。来期も「世田谷区」はプラスに転じ、「東京23区」、「全国」とともに悪化幅が縮小する見通し。



※データ参照(データ:業況判断DI前期比)
東京23区=「東商けいきょう:業況判断DI」(東京商工会議所)
全 国=「中小企業景況調査 業況判断DI(前期比季節調整値)」
(独立行政法人中小企業基盤整備機構)

経営上の問題点

1位「需要の停滞」26.9%(前期比▲6.8ポイント)は、18期連続1位となった。1位~4位までの項目は、2位「購買ニーズの変化への対応」24.0%(同+0.1ポイント)が前回3位から上昇するなど、順位の入れ替わりはあるものの、大きな変化はみられない。5位「仕入単価、下請単価の上昇」21.9%は、前期比+7.6ポイントで前回7位から大きく上昇している。また、8位「従業員の確保難」14.8%(前期比+3.0ポイント)は前回10位から、11位「事業資金の借入難」8.7%(同+1.4ポイント)は前回14位から上昇している。

順位	項 目	回答数	回答率	前回順位
1	需要の停滞	102	26.9%	- 1
2	購買ニーズの変化への対応	91	24.0%	↑ 3
3	販売単価、製品単価、請負単価の低下・上昇難	86	22.7%	↓ 2
4	新規参入者の進出や同業者の増加	85	22.4%	↓ 3
5	仕入単価、下請単価の上昇	83	21.9%	↑ 7
6	大企業(大型店)進出による競争激化	80	21.1%	↓ 5
7	人件費以外の経費の増加	62	16.4%	↓ 6
8	従業員の確保難	56	14.8%	↑ 10
9	人件費の増加	55	14.5%	↓ 8
10	取引条件の悪化	38	10.0%	↓ 8
11	事業資金の借入難	33	8.7%	↑ 14
12	生産設備の不足・老朽化	28	7.4%	↓ 11
13	購買力の他地域への流出	23	6.1%	- 13
13	店舗・倉庫の狭隘・老朽化	23	6.1%	↑ 15
15	その他	21	5.5%	↑ 17
16	代金回収の悪化	19	5.0%	↓ 11
17	在庫の過剰	11	2.9%	↑ 18
17	金利負担の増加	11	2.9%	↓ 16
19	在庫の不足	6	1.6%	- 19
20	生産設備の過剰	5	1.3%	- 20

※複数回答(3つまで選択)のため、回答率の合計は100%を超える。